

# 令和2年度(2020年度)

## 第4回北海道農業・農村振興審議会畜産部会 議事録

日時：令和3年(2021年)2月17日(水)13:30~14:00

場所：北海道自治労会館 4階 第4会議室(リモート)

### 1 開会

#### ○山根主幹

定刻となりましたので、ただいまから、令和2年度第4回北海道農業・農村振興審議会畜産部会を開会いたします。

私は、事務局を務めております農政部農政課の山根でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、御案内のとおり、本日は新型コロナウイルス感染症対策のため、ウェブ方式での開催としております。

本部会では、はじめての試みとなりますが、円滑に会議が進むよう事務局として努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

御出席の皆様には、ゆっくり、はっきり御発言いただけますよう、御協力をお願いいたします。

なお、リモート出席の委員におかれましては、音声聞こえなくなるといったトラブルが生じましたら、速やかに事務局に御連絡をお願いします。

また、トラブルによっては、一時的に会議を中断することもございますので、御了承願います。

それでは、開会に当たりまして、堂地部会長から御挨拶をいただきます。

### 2 挨拶

#### ○堂地部会長

部会長を務めさせていただいております酪農学園大学の堂地でございます。本日もよろしくお願いいたします。

第4回畜産部会の開会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

本日は年度末の何かとお忙しい中、本畜産部会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、今回の畜産部会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ウェブ方式での初めての試みですが、円滑な議事進行について、皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、昨今の酪農・畜産を取り巻く情勢は、長期化するコロナの影響を受け、畜産物価格の低迷や在庫の滞留、消費の減退など、課題も多く見受けられますが、生産者の経営が

将来にわたり持続的に発展していくためには、酪農・畜産に携わる関係者が互いに知恵を出し合い、生産力を高め、消費の拡大につなげていくことが何よりも重要だと考えております。

今更、言うまでもありませんが、本道の酪農・畜産は、日本の食料供給地域としての重要な役割を担いながら、今後とも発展していかなければなりません。その意味からも、本道の酪農・畜産への期待は、今後、ますます高まるものと考えております。

本日は、酪肉近計画及び家畜改良増殖計画の最終的な取りまとめと、その後の答申に向けて御審議いただく大切な部会となります。

限られた時間ではありますが、委員の皆様におかれましては、是非とも、活発な御議論をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会の御挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

## ○山根主幹

ありがとうございました。

続きまして、北海道農政部長の小田原より、御挨拶申し上げます。

## ○小田原農政部長

農政部長の小田原でございます。

北海道農業・農村振興審議会第4回畜産部会の開催に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、お忙しい中、御出席いただき、厚くお礼を申し上げますとともに、日頃から道農政の推進、とりわけ酪農・畜産の振興に御理解、御尽力を賜り、深く感謝を申し上げます。

本日の畜産部会は、初めてのウェブ方式での開催となります。何かと不自由や戸惑うこともあるかと思いますが、御協力よろしくお願ひします。

さて、新型コロナウイルス感染症が道内で初めて確認され全国に拡大し、一年が経過しました。

今日から日本でもワクチンの接種が始まりますが、この間、外出の自粛や時短営業が長期化し、食の需要が縮小し消費形態が変化するなど、本道の酪農・畜産業への影響が懸念される状況となっています。

乳製品については、バターや脱脂粉乳の在庫が増加しているほか、牛肉についても、現状では価格は回復し、大きな影響は見られないものの、コロナの収束が見えない中、価格等の動向を注視しているところであります。

こうした中、本道農業を活性化させていくためには、関係者がいままで以上に連携を図り、生産面での強化とともに、消費の拡大、需要の創出対策を講じていくことが何よりも重要だと考えております。

御案内のとおり、今年度の畜産部会は、本日をもって最後の開催となります。

本日は、部会長からも話がありましたが、第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画(案)

及び第10次北海道家畜改良増殖計画（案）について、取りまとめの御議論をお願いするとともに、両計画に対する答申案についても御審議いただきたいと考えています。

限られた時間ではありますが、委員の皆様におかれましては忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

それでは、よろしく願いいたします。

### 3 委員の出席状況報告

#### ○山根主幹

次に、委員の出席状況についてでございますが、本日の会議につきましては、西川特別委員が欠席されております。

委員定数10名のうち、会場に3名、リモートで6名ということで、合計9名の委員が出席されておりますので、北海道農業・農村振興条例第27条第2項の規定により、本部会が成立していることを御報告申し上げます。

また、「北海道農業・農村振興審議会の運営について」の第1の（2）のイの規定に基づきまして、審議会の会長であります北海道大学大学院農学研究院の近藤巧教授には会場に、副会長であります酪農学園大学の園田高広教授にはリモートで出席いただいております。以上でございます。

それでは、早速、議事に入りますが、ここからの議事進行は、堂地部会長をお願いいたします。

### 4 議事

#### ○堂地部会長

それでは、早速、議事を進めてまいります。本日の進め方について説明します。

お手元の次第に沿って、まず、はじめに、議題の（1）の第3回委員御意見及びパブリック・コメントに対する対応方向について、議題の（2）の第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画（案）について、議題の（3）の第10次北海道家畜改良増殖計画（案）について審議し、その後、北海道酪農・肉用牛生産近代化計画及び北海道家畜増殖計画の各計画案に対する答申案について審議を進めてまいります。

なお、本日の議事は、おおむね14時20分頃の終了を予定しておりますので、皆様の御協力をお願いします。

**(1)第3回委員御意見及びパブリック・コメントに対する対応方向について**

**(2)第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画(案)について**

**(3)第10次北海道家畜改良増殖計画(案)について**

**(4)北海道酪農・肉用牛生産近代化計画(案)及び北海道家畜改良増殖計画(案)に対する答申(案)について**

## ○堂地部会長

それでは、議題に入ります。

議題の（２）第８次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画（案）及び議題の（３）第１０次北海道家畜改良増殖計画（案）について、前回の第３回畜産部会では素案について御審議をいただいたところですが、今回、委員の皆様からいただいた御意見や、パブリックコメントの募集により、道民の方々からいただいた御意見などを踏まえ、一部修正の上、案として取りまとめられております。

なお、本日は、リモート開催となりましたので、委員の皆様には、事前に説明動画を御視聴いただいた上で、あらかじめ議案に対する御意見を頂戴しております。

いただいた御意見については、一覧にして、昨日皆様にお送りしております。

つきましては、事前に取りまとめた意見について、道側よりコメントをお願いします。

## ○新井生産振興局長

生産振興局長の新井でございます。よろしくお願いします。

それでは、両計画につきましていただいた御意見に回答させていただきます。

まず、酪農・肉用牛生産近代化計画についてですが、佐藤委員から、需給バランスを踏まえた出口戦略の推進や、全国和牛能力共進会の開催を好機としたブランド構築について、施策をしっかりと進めて欲しいとの応援の御意見をいただきました。

これに関しましては、道といたしましても同様の認識で、マーケットインの発想に基づいた施策を推進する方向で、道産畜産物の安定的な生産に繋がるよう取り組んでいくとともに、様々なイベントやPR活動を通じまして、関係機関・団体の皆様と連携し、北海道ブランドの構築に努めて参りたいと考えております。

また、仲沢委員からは、新型コロナウイルス感染症の影響下においても、生産者・流通事業者双方が安定して生産販売できるようにということで、各種支援策の強化について御意見をいただいたところです。

こちらについては、道といたしましては、新型コロナウイルス感染症や災害等の不測の事態においても適宜適切な支援策が措置されるよう国に対して求めていくとともに、生産現場と実需者の緊密な連携のもと、需要の確保に向けた取組を推進してまいる考えでございます。

また、家畜改良増殖計画について、仲沢委員から、家畜伝染病の農場への侵入防止対策に関する御意見をいただきました。こちらに関しては、御指摘のとおり、都府県の養鶏場、養豚場において、高病原性鳥インフルエンザですとか、豚熱が断続的に発生しているところでございます。こういう状況において、道といたしましては、道外からの人を経由したウイルスの持ち込みを防ぐために、空港等での靴底消毒を実施するとともに、最後の砦である各農場においても、飼養衛生管理の徹底を図っているところですが、引き続き、国や市町村、関係機関とも連携の上、全道一丸となって、農場へのウイルス防止対策を講じてまいる考えでございます。以上でございます。

### ○堂地部会長

ありがとうございました。

このほか、再度検討を要する点や、さらに付け加えるべき点などについて、どなたか御発言はありますでしょうか。

もし、御意見のある方は、挙手ボタンをクリックして合図をお願いします。  
いかがでしょうか。どなたか御意見ありますでしょうか。

(意見なし)

特段、御意見が無いようですので、第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画（案）及び第10次北海道家畜改良増殖計画（案）については、「適当である」として集約し、審議会に答申するというところでよろしいでしょうか。

(異議なし)

### ○堂地部会長

ありがとうございます。

それでは、異議なしとのお声をいただきましたので、そのようにまとめてまいりたいと思います。

なお、両計画のとりまとめにあたりまして、委員の皆様から様々な御意見をいただきましたが、今後、計画の推進に当たって配慮すべき事項について、付帯意見として答申書に書き加え、提出したいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

### ○堂地部会長

ありがとうございます。

それでは、付帯意見についてですが、これまでの畜産部会において、委員の皆様からいただいた御意見を踏まえ、私の方で案を作成し、昨日、委員の皆様を送付させていただいております。

それでは、付帯意見としまして、まず、(追加資料1を読み上げ)、続きまして、追加資料の2ですが、(追加資料2を読み上げ)、以上です。

今説明した二つの付帯意見について御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(意見なし)

酪肉近計画及び家畜改良計画に対する付帯意見を読み上げさせていただきましたけれども、御意見等ございますでしょうか。

なければ、このようにとり進めさせてもらいますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

### ○堂地部会長

それでは、文言の細かい点については、審議会会長であります近藤会長と私とで協議させていただき、最終決定を会長に一任する形で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

### ○堂地部会長

ありがとうございます。

それでは、本日付けを持ちまして、審議会から道に答申する方向で進めてまいりたいと思います。

答申案の審議については以上で終了となりますが、この計画案につきまして、道ではどのように取組を進めていくのかお考えをお聞かせいただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。

### ○新井生産振興局長

生産振興局長の新井でございます。

部会長からいただいた御意見につきまして回答させていただきます。

まず、酪肉近計画と家畜改良増殖計画の両計画の取りまとめに当たりましては、広く畜産関係の皆様や道民の皆様から御意見をいただくとともに、委員の皆様におかれましては、昨年7月から計4回にわたりまして精力的に御議論をいただきましたことに、まず感謝申し上げます。

道といたしましては、この両計画が、道内の酪農・畜産関係者にとって共通の目標であるということを認識し、関係者と一体となって、国の施策等も効果的に活用しながら、計画の目標の達成に向けて取組を進めてまいる所存でございます。

具体的には、特に、酪農に関しましては、家族経営体の維持・発展に向けて、畜産クラスター事業の効果的な活用に努めるほか、搾乳ロボット等の省力化機械の導入、酪農ヘルパーやTMRセンターなどの営農支援組織の充実による作業の分散化、乳牛のベストパフォーマンスの実現、放牧酪農の推進などに力を入れ取り組んでまいる考えでございます。

また、肉用牛、特に黒毛和牛につきましては、令和9年に、全国和牛能力共進会の北海道開催が予定されておりますので、これを見据えて、ゲノミック評価を活用し、地域の和

牛改良組合等における優良繁殖雌牛群の造成を加速化させるほか、一貫経営の推進を通じて北海道和牛のブランド力の強化を図るとともに、消費拡大対策に向けて、国内はもとより、アジア等への輸出の拡大に力を入れ、取り組んでまいる考えでございます。

以上が今後に向けた考えでございますが、皆様におかれましても、引き続き御理解・御支援いただければと思います。以上でございます。

## ○堂地部会長

ありがとうございました。それでは、畜産部会での審議を終えるにあたり、私の方から一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、昨年7月28日の第1回畜産部会の開催から、これまで計4回にわたりまして、酪肉近計画及び家畜改良増殖計画の取りまとめに当たり、熱心な御議論をいただき、誠にありがとうございました。

委員の皆様には、様々な御立場から、非常に有意義な御意見をいただいたのではないかと考えております。

また、道におかれましても、これらの御意見について、上手に両計画に反映していただき、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、本道の酪農・畜産経営への更なる影響が懸念される所ですが、委員の皆様との御議論を踏まえ、10年後を見据えた「本道酪農・畜産のめざす姿」に相応しい計画に仕上がったのではないかと考えております。

いずれにしましても、最も重要なことは、本計画をつくって満足することではなく、本計画を10年後の道標として、いかに酪農・畜産関係者の皆さんと共通の目線で取り組んでいけるかということだと思います。

この旗振り役は、まさに道にしかできないことだと思いますし、今後とも、道の役割を期待している所です。

それでは、1年間にわたり、関係の皆様には色々と御協力をいただき、誠にありがとうございました。

簡単ではございますが、退任の御挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

## 5 閉会

### ○山根主幹

堂地部会長、大変ありがとうございました。

以上を持ちまして、本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。

閉会に当たりまして、農政部長の小田原より御挨拶申し上げます。

### ○小田原農政部長

畜産部会の閉会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

委員の皆様方には、熱心に御審議をいただきましたこと、また、様々な御意見をいただきましたことに対して、心からお礼を申し上げます。

特に、堂地部会長におかれては、両計画の取りまとめはもとより、付帯意見の精査を含め、最後まで計画の策定に御尽力を賜り、重ねてお礼を申し上げます。

この両計画については、この後、開催されます農業・農村振興審議会において、近藤会長から道に対して答申をいただき、その後、庁内の諸手続を経て、3月中に策定する予定でございます。

先ほど、堂地部会長からの挨拶にもございましたが、今回策定する二つの計画の目標達成に向けて、道内の酪農・畜産関係者が共通の認識のもとに、いかに実行に移していくかということがこれから何より重要だと考えております。

道としても、しっかり取り組んでまいりますので、引き続き委員の皆様方には御理解、御協力をお願いする次第でございます。

酪農・畜産業を取り巻く環境は今後とも様々な形で変化すると考えておりますが、この変化を乗り越えて本道酪農・畜産が持続的に発展できるよう、道といたしましては、生産者はもとより、関係団体と連携しながら、経営体質の強化や生産体制の強化、そして増産目標にしておりますが、畜産物の出口対策となります需要の創出に取り組んでまいりたいと考えてございます。

結びになりますが、今後とも道農政の推進に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

## ○山根主幹

これをもちまして、令和2年度第4回北海道農業・農村振興審議会畜産部会を閉会いたします。本日は、誠にありがとうございました。

以 上